令和5年度瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム in 和歌山
開 催 報 告

公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

1 目 的

瀬戸内海の環境保全に係る事務を担当する正会員(府県・政令指定都市・中核市や、環境保全の実践活動を行っている環境衛生団体・漁業団体の職員等)ならびに賛助会員で、新たに瀬戸内海の環境保全業務に従事する者を対象に、瀬戸内法や環境技術等、専門的知識を習得することを目的として、研修を行っています。

2 研修期間、研修場所等

(1)研修期間 令和5年10月18日(水)～20日(金)
(2)研修場所 和歌山県和歌山市 スマイルホテル和歌山
(3)視察場所 2日目:友ヶ島(第3砲台跡、南垂水海岸、北垂水海岸)

3 参加人数 研修員24名(10府県14市)

4 講 義

◆「瀬戸内海の海洋環境総論～地球環境も視野に入れて～」
広島大学 名誉教授 松田治 氏

◆「瀬戸内海における環境政策と未来の方向性」
環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 室長補佐 森川政人 氏

◆「貧栄養化・気候危機と水産資源:低次-高次生態系網の視点から」
大阪公立大学大学院工学研究科 教授 相馬明郎 氏

◆「海洋ごみ問題の改善に向けて:大阪湾での取組」
大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 准教授 千葉知世 氏

◆「水環境再生のために必要な内湾の流れと水質の視点:大阪湾を例に」
大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻みず工学領域 教授 入江政安 氏

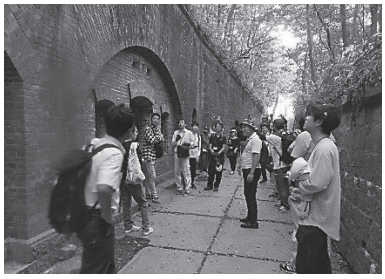
◆「和歌山県における水環境保全の取組」
和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課 環境保全班長 山本道方 氏

5 現地研修(視察)

◆「友ヶ島における海洋漂着ごみの実態と取組み(一社)加太・友ヶ島環境戦略研究会の活動紹介と案内」
(一社)加太・友ヶ島環境戦略研究会 環境教育部ディレクター 平井研 氏

6 班別討議及び全体討議

研修生を4つの班に分け、「海洋ごみ対策」をテーマに班別討議し、その後、全体討議を行いました。



視 察 (友ヶ島)

班別討議

参加者からの感想

◆ 広島県 環境県民局 環境保全課 瀬戸内海環境戦略グループ　小笠原 大智 氏

令和4年度から海洋プラスチックごみ対策業務に携わるようになり、瀬戸内海や環境保全に関する知識の習得、瀬戸内海を囲む関係自治体の皆様との交流を目的に参加しました。

講義では、瀬戸内海の海洋環境の変遷や課題、取組などについて、瀬戸内海全体を捉えた興味深い話ばかりで、大変勉強になりました。

また、「海洋ごみ問題」について、現地視察で訪れた友ヶ島では北は瀬戸内海、南は太平洋に面していることから国内外からごみが漂着しており、海洋ごみ対策については広く連携しながら取り組んでいくことが重要と感じました。翌日のワークショップでも参加者から様々なアイデアが出てきており、今後の業務に大変参考になりました。

最後になりましたが、トレーニングプログラムを企画・運営いただきました瀬戸内海環境保全協会の皆様、興味深い講義をしてくださった講師の皆様、共に受講し、意見交換させていただいた参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

◆ 北九州市 環境局環境監視部環境監視課 水質土壌係　菊地 明日香 氏

私の普段の業務では瀬戸内海環境保全特別措置法などに基づく各種行政手続きを主に担当しており、トレーニングプログラムを通して今後の業務に生かすべき心がけ、取り組むべき問題の視野が広がったように思います。

専門性の高い講義では、複雑な生態系を再現する数理モデルを基にした漁獲量に影響するファクター、高次元での物質循環、低層 DO 低下などの予測の先端研究に触れることができ、さらには、予測を実際の政策へとつなげる未来ビジョンに感銘を受けました。これまで見落としていた視点に数多く気付かされたことは、新鮮な驚きと共に強く心に残っています。

また、海洋プラスチック問題についても、海洋研究のモデルとしても高い価値を持つ瀬戸内海で、地理的にわずかな差で海流が大きく異なり、漂着ごみの性状に差が生まれていることを、現地友ヶ島の視察を通して実感することができました。

貴重な研修、経験をさせていただきまして本当にありがとうございます。

◆ 明石市 市民生活局 環境室 環境保全課　友弘 保 氏

このトレーニングプログラムは、瀬戸内海の現状や環境政策の方向性等を取り扱った講義に加え、大阪湾の海洋ごみが大量に漂着する友ヶ島の現地視察など多岐にわたり、非常に有意義なものでした。

特に、海洋ごみ対策をテーマとしたワークショップでは、様々な意見が提案され、密度の濃い議論が交わされたことで、海洋ごみ問題に対する認識が深まりました。さらに、人が一堂に会し時間をかけて討議することの大切さを再認識することもできました。

また、地域や世代が異なる方々と交流し意見交換を行えたことも、この研修の大きな意義の一つであったと感じています。研修の開催・運営にあたり、様々なご苦労がある中、研修の時間内外で参加者同士の親交がより深まるようご配慮いただいた事務局の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後は、今回の研修で得た多くの知識や貴重な体験を生かし、微力ながらでも瀬戸内海の環境保全に貢献できるよう、日々の業務に取り組んでいきたいと考えています。